

福島県PTA連合会会報  
第44号\_H09.11.30

# PTAふくしま

## 第44号

福島県PTA連合会

平成9年11月30日

印刷/泉印刷所



◀ 生き生きと  
学習する  
子どもたち



熱い心で  
語り合う  
親たち ▶

## いわき大会を ぶらなKUN



大会実行委員長 正木 全道

十月二十三日、二十四日の二日間に亘り、第四十六回福島県PTA研究大会を開催しましたところ、県内各地から、参加申し込み者二千二百八十六名、ほかご来賓、大会役員等合わせて、およそ三千六百名の参加を得まして、盛會裡のうちを終了することができました。会員の皆様のご誠意に感謝しますとともに、今大会の運営にご支援、ご協力をいただきました関係者の皆様に心より厚く御礼を申し上げます。さて、今回の大会の開催に当り、ポイントとなった点を二つ程挙げてみます。まず、一点目は、大会の運営資金についてですが、大凡、参加者の会費といわき市及び県P連からの補助の合計が、運営費の全体の七割程度であり、不足する残りの三割の資金をどのような方法で調達するかでした。これまで説明すれば大会の運営費がいくら位になるか、大体の検討がつくかと思えます。(参加費は一名、三、五〇〇円です。)

そこで私たちは、協賛金を集める方法を選んだわけですが、但し、大会要項がスポンサー広告のような形で厚くならないようにすることと、また、大口のご協賛をお願いすることに對しての心苦しさもあり、できる限りにおいてPTAの大会らしく、金額も一律五千元とし、市内一円から幅広く集めることにしたわけです。これは、いわき大会のPR(広報活動)としても有効だったと思います。二点目は、記念講演についてですが、講師の中村敦夫先生の突然の体の不調により、残念ながら講演を途中で打ち切りましたが、その後、大事に至らなかったのは、大会会長の山岸会長が適切な判断を示され、また皆様にも深くご理解をいただくことができたからだと思います。

最後に、次年度開催の喜多方大会のご盛會と県内各単位PTAのご発展、そして会員皆様の益々のご活躍を祈念し御礼いたします。

# 分科会報告

## ★第一分科会 組織運営

### 《提言》

- 「会員の参加意識高める組織運営の工夫と改善」
- 二本松市立岳下小学校  
PTA会長 鈴木 明男
- 「地域との連携を深め、活動の活性化を図る組織運営の工夫と改善」
- 石川町立中谷第二小学校  
PTA会長 塩田 繁

## ★第二分科会 教養活動

### 《提言》

- 「会員の資質の向上を図る研修活動」
- 須賀川市立西袋第一小学校  
PTA会長 添田 弘幸
- 「生涯学習社会の視点に立った研修活動」
- 会津若松市立門田小学校  
PTA会長 山田 勝美

- 「協議の内容とまとめ」
- PTAの年間事業計画は6か年を見通して立てる。そして内容を精選することにより効果的な事業となる。
- PTAの諸会議、会合を精選し、回数、実施時刻等を工夫する。
- 児童生徒、学校、PTAが一体となって取り組む事業は、明確な目標、達成観、充足観が持てるようにすると効果的である。



- 上を図る研修活動の推進」
- 河沼郡湯川村立湯川中学校  
PTA会長 坂内 善伸

### 《協議の内容とまとめ》

- 会員の資質の向上を図る活動については、各地区で学校や園との連携・情報交換や共同の教育講演会等を開催している。
- 親は、少子化にともない「自分の子どもだけは」という意識が強い。親同士のつながりを持たせることにより、地域の子どもは地域で育てるということができるようになるだろう。

- また、学校・家庭・地域社会の役割と連携のあり方・連携の強化が重要である。
- PTA行事への参加人数の減少はどこでも問題になっている。PTA役員になるのは多忙の中、実に大変である。
- 会員の中には「人のために何かできることは幸せである。」という意識が薄れつつある。会長のリーダー性のもと各会員の自覚が強く求められている。

## ★第三分科会 家庭教育(小)

### 《提言》

- 「あらためて見つめ直す親のあり方、家庭教育」



- 福島市渡利小学校  
PTA会長 古関 恭造
- 「家庭教育の重要性を再認識し家庭の教育力の高揚・充実に努めよう」
- 東白川郡矢祭町立下関河内小学校  
PTA会長 小井戸 正和

### 《協議の内容のまとめ》

- 子どもへの過剰な期待が、子供たちの重圧となっているのではない。
- 家庭教育充実のため、様々な情報を全会員に伝え、意見を聴くというようなPTA活動も大切ではないか。
- 母親の声がPTA活動に反映すれば、家庭と学校、親と子のつながりはしっかりできる。

## ★第四分科会 家庭教育(中)

### 《提言》

- 「家庭教育の重要性を再認識し家庭の教育力の高揚・充実に努めよう」
- 伊達郡川俣町立川俣中学校  
PTA副会長 毘 久美子
- 「家庭教育を高めるPTA活動のありかた」
- 田村郡小野町立浮金中学校PTA  
教養部長 遠藤 武雄

### 《協議の内容とまとめ》

- 「学校週5日制」は、子供の心に「ゆとり」がみられ、のびのびとした姿が見られる。
- 「家庭教育」は、幼少からの教育が大切である。また、教育委員会で、家庭教育に関するセミナーや出前講座等数多くの計画を実施している。
- 家庭では子供と同じレベルに立って、対話することが大切である。

### ★第五分科会 健全育成

#### 《提言》

- 「地域の連携を深める子供の奉仕活動・社会参加のすすめ方」  
南会津郡田島町立荒海小学校  
PTA会長 廣野庄一
- 「振興住宅地における健全育成のあり方」  
郡山市立緑ヶ丘第一小学校  
PTA会長 木目沢善重
- 「地域産業の体験的活動を通じた健全育成」  
大沼郡会津本郷町立本郷中学校

- PTA会長 小林重春
- 「健全育成を図る地域の教育環境整備のあり方」  
西白河郡表郷村立表郷小学校  
PTA会長 滝田国男

#### 《協議の内容とまとめ》

- 避難の家設置では、一部の家庭、商店への依頼が多いが、全戸に依頼しているところもある。
- 学校モニター制は、学校からの一方的な通知とせず、地域の声や情報が得られ好評であるが、実施している学校は多くない。
- 父親の参加については、親子で参加する、父母一緒に参加するなどし、参加を促したい。



### ★第六分科会 養護教育

#### 《提言》

- 「養護教育への理解を深め、共に活動する輪を広げよう」  
耶麻郡山都町立山都第二小学校  
PTA会長 安倍良信
- 「障害児教育の理解とPTA活動」  
相馬市立飯豊小学校  
PTA会長 遠藤和則
- 「心身に障害を持つ人への理解とPTA活動」  
伊達郡月館町立月館小学校

- PTA会長 安部義己
- 《協議の内容とまとめ》
- 心身に障害のある人への理解を深め、共に活動する輪を広げたい。

- 心身に障害のある子供と共に活動し、体験を通して理解していくことが大切である。
- 心身に障害のある子供との触れ合い交流は大変意義深い。私たちが学ぶことはたくさんある。
- 心身に障害のある子供との交流の機会が多いが、保護者同士の交流は少ない。
- 養護教育に対する偏見、差別は少なからずある。正しい養護教育の理解へ啓蒙活動を行っていく必要がある。

## 教育は人づくり

《木枯し紋次郎》の中村敦夫氏が、教育に対する熱き思いを、流暢な



弁舌で切れ味鋭く語られた。中村氏は、演出家、情報番組のニュースキヤスター、小説家等幅広く活躍中である。小・中学校時代をいわき市で過ごされた。

#### ◎試行錯誤の小・中学校時代

決まったものを頭から押しつけられるのではなく、いろいろなことを子どもたちが企画し、教師がアシストするという楽しい環境があった。勉強の得意な子、喧嘩が強い子、運動が得意な子など、それぞれの価値観・存在感があり、仲良く生活していた。

#### ◎現在は混乱の時代

現在おかしなのは教育だけでなく、政治的、経済的、社会的にも先行きが全然見通せない状況に落ち込んできている。

この国は一体どこへ向かって進んでいるのかが不明瞭な時代である。

#### ◎教育は人材づくり

どういう社会をつくるかと言うイメージ無しに、教育は語れない。今、我々が生きている時代の位置・状況を認識、把握することが重要な課題である。教育は内容そのものが変わらない限り、数字や形を変えても意味がない。

◎近代史・現代史を見つめ直す  
日本の思想は自前で作られてい

なかった。明治維新のリーダーたちは、驚異的なスピードで日本の近代化を進めたが、その後の高度成長を遂げた経済でも、今の日本は出口がわからないところにいる。

#### ◎これからの教育

教育界では、いまだに経験したことがない問題が子どもの中に起こっている。どんな教育をやらなければならぬか、を真剣に考えなければならぬ。人間的な教育が欠如している。

※講演半ばで、健康上の理由から講演が打ち切りになったが、講師に対する惜しみない拍手が贈られた。

(文責 平一中松本校長)

#### ■各分科会参加人数

第1分科会	555人
第2分科会	306人
第3分科会	483人
第4分科会	269人
第5分科会	572人
第6分科会	101人



# PTA会員と生徒の協働を通して

《川俣町立川俣中学校PTA》

本町は、福島市の東南22kmの阿武隈山地西斜面の丘陵地帯に位置し、古来織物(絹・化繊)の産地として栄え、今日に至っている。現在、「緑の中に光る絹の町・川俣」のもと、地場産業の活性化や美しい町づくりに取り組んでいる。

本校のPTA活動は、学校教育活動への全面協力を基本方針とし、生徒の健全育成をめざし、物心両面での支援を行っています。部活動保護者会を組織した部活動委員会、他校に見られない活動であり、対外試合などの輸送手段を一手に引き受けています。陸上部の東北・全国大会出場や合唱部の東北大会出場など、今年度も多くの優秀な成績をおさめました。また、親と生徒が一体となって実施する奉仕作業を計画する設備委員会の活動も特筆ものです。

本校は、昭和四十六年に統合中学校として開校したため、校舎の老朽化が目立ちます。町内のクリーン作戦はもとより、校舎内の掲示板のクロス張り替えや廊下壁面・階段の塗装作業など学習環境整備に努めています。PTA会員と生徒の協働を通して多くの感動や感謝の心を養う生きた活動です。



# 本来のPTA活動を 目指して

《田島町立田島小学校PTA》

田島小学校PTAでは毎年六月下旬から七月上旬にかけて、各地区十八カ所地区懇談会が開かれる。夏休みの計画を立てる会合であるが、この会に役員が分担して参加し、一部の時間を借り、家庭教育や父親の役割等について、啓蒙活動を行っている。

これは、PTA総会等だけでは行事や活動計画のみの話し合いになりがちなので、日常的に本来行うべき、子供の健全育成について各家庭レベルで考えていこうとした活動である。

# 訪問

この活動をとおして、家庭教育の重要さを再認識したり、子育てについての悩みを話し合ったりと徐々に成果も見え始めてきた。まだ活動を始めて二年目であるが、次年度からは担当教師も交える等活動

の輪を広げたいと考えている。又、PTA活動も地味ではあるが、本来のあるべき姿に少しずつ戻っているという実感を味わっているところである。本年度は、さらに町教育委員会との協力をえて、教育講演会を開いたところ、大勢の会員が参加し、熱心に話を傾ける等、関心の高まりを感じることができた。



## 晴れの表彰

### おめでとう

### ございます

第四十六回福島県PTA大会いわき大会において、次の方々に對し感謝状並びに表彰状の贈呈が行われました。(団体表彰者のみ掲載いたします。)

#### 【感謝状】

▽県連P前副会長

齋藤好栄、齋藤良眞

▽同監事 上遠野 仁

新村 章、渡部長一郎

▽同理事

鈴木洋二、佐久間寿好

本多 守、石崎孝一、津田彰夫

齋藤正行、菅野康裕、山田喜男

松本一彦、坂本栄司、佐藤曉美

▽同理事・地区事務局長

高橋正二郎、石塚達郎

関根直次、渡部雄次、佐藤英男

遠藤俊博

▽地区事務局長 山野辺庄吉

大槻高仁、齋藤一哉、八代 昭

大堀満広、高和 靖、本多勝男

室井文輔、中山雄助、二瓶新平

▽県連P事務局長 尻谷 洋

▽同 事務局

今泉清司、遠藤 忠

#### 【表彰状】

▽福 島(個人表彰十一名)

福島三小P

▽達 南(個人表彰三名)

# 父と母・両親が手を携えて 取り組むPTA活動

## 《相馬市立日立木小・幼PTA》

相馬市の南東部・中央を国道六号線が縦走している純農村地帯の学校です。児童園児計一九一名、P会員数一四四名の小規模ながら充実した活動が展開されています。

学校創立当時よりPTAの方々の協力は高いものがあります。特に今日の社会情勢を考慮した親子のふれあい活動の学年行事・親子もちつき・鯉のぼり掲揚・バザー等に積極的に取り組み、民生的・自主的な運営のもとに改善を重ねてきた結果、年々その成果が上がってきています。

また、本PTAの総会・各種委員会・授業参観・方部懇談会等はいずれの会合ともほぼ百%の出席率を示し、また役員構成における父親の占める割合は五十%以上と高く、両親が手を携えて協力するPTAとして、他に類を見ない主体的な参加の姿勢がみられます。

さらに、地域社会との交流及び協力関係事業として、公民館との「少年仲間づく



# 単P

## 生徒が見える

## PTA活動

### 《北会津村立北会津中学校 父母と教師の会》

本校は会津盆地の中央に位置し、稲作と果樹・生花栽培を基幹産業とする北会津村の地域の学校であり、活発なPTA活動を行っています。

座談会・講演会・研修旅行を通し、会員の家庭教育の質と相互の和を高めようとする教養委員会。臨時増刊を含め年四回の会報を発行し、親子のあるべき姿を問いかける広報委員会。生徒の活動を見守り、地区懇談会で家庭や地域における生徒の生活について話し合う輔導委員会。年三回親子で汗を流し、学校内外の環境整備を行う施設委員会。役員会は、各委員会の活動を総括し、中体連時に生徒の応援支援を行う等、生徒を見つめながら、生徒のためになる活動に努めています。

本年度の新事業は、生徒が学年ごと班単位で実施する農業体験学習への全面的協力です。全校生を延べ54戸の農家で受け入れ、勤労をと



もにし、郷土愛や社会性を培う等の心の教育に寄与し、啓発的体験を通じた進路指導に一役買うことができました。生徒との心の交流を深めたことも大きな成果です。PTA活動への全会員の熱意をどう高めるかが今後に残された課題です。

- ▽伊達 (個人表彰三名)  
醸芳小P、小坂小、小国小P
- ▽安達 (個人表彰二名)  
杉田小P、大平小P
- 玉井小P、百目木小P
- 田沢小P、針道小P
- 二本松二中P
- ▽郡山 (個人表彰八名)  
安積二小P、穂積小P
- 安子島小P、鬼生田小P
- 海老根小P、行健中P
- ▽岩瀬 (個人表彰五名)  
須賀川二小P、長沼東小P
- ▽石川 (個人表彰五名)  
中谷二小P、浅川中P
- ▽田村 (個人表彰三名)  
小野新町小P、船引小P
- 常葉中P
- ▽西白河 (個人表彰八名)  
▽東白川 (個人表彰六名)  
▽若松 (個人表彰五名)  
大戸中P
- ▽北会津 (個人表彰四名)  
▽耶麻 (個人表彰九名)  
▽両沼 (個人表彰六名)  
▽大沼 (個人表彰三名)  
▽南会津 (個人表彰五名)  
▽相馬 (個人表彰六名)  
日立木小幼P、鹿島小P
- 玉野幼・小・中P
- ▽双葉 (個人表彰四名)  
檜葉北小P、富岡一中P
- ▽いわき (個人表彰十二名)  
小名浜一小P、湯本一小P
- 勿来三小P、田人二小P

### 母親リーダーセミナー

第十八回県PTA母親リーダーセミナーは、浜通り(九月十九日)、会津(十一月四日)と開催し、それぞれの会場で大きな成果を上げることができました。教育委員会・母親委員・開催地区の会長様方には、大変お世話になりました。また、県教育庁生涯学習課の森口先生には、適切なご指導をいただきありがとうございます。

セミナーの概要をお知らせします、

— 講義から —  
● 生涯学習の意義や必要性と学習



の内容、組織での取り組み方と学習の進め方について

- 話し合い学習の方法と特色、司会者・記録者・参加者の役割などについて
- 話し合い(バズセッション)から —
- 森口先生から次のようなテーマをいただいで活発な討議をした。
- 「なぜ、今ボランティア活動なのか。」
- 「なぜ、女性のPTA会長は少ないのか。」
- 「どうしたら父親を子育てに参加させることができるか。」
- 「なぜ、家庭の教育力は低下しているのか。」

わが校の会長は、本校の会長として二度目のお勤めである。一度目は、平成元年度から二年度にかけての二年間である。これ以前には、地域の幼稚園、小学校のPTA会長を歴任し、現在は、郡山市PTA連合会の役員を二期にわたって勤めている。また、スポーツ少年団の指導者として役員として、地域はもちろんのこと郡山市全体のリーダーとして活躍である。さらに本年度は、郡山市教育委員会社会教育委員に選任され、社会教育全体を見通しての立場で振舞われることが多くなった。



### わが校の名物会長

郡山市立行健中学校 父母と教師の会 会長 岡崎 初美氏

もちろん、職業はお持ちで、会社役員として現役バリバリである。この外にも、この紙面では紹介しきれないほどのご経歴がおありである。さて、これで人望のほどがおわかり頂けるかと思うが、この会長の妻は、社会の変化を的確に見通した見識と卓越した実行力にあると思う。すなわち、不易と流行の見極めや人間の生き方に対する

洞察力があり、その基調としているところに常に生徒や若者がいることには心強くしているところである。

また、本会の運営や昨年度の県PTA指導者研修会及び研究大会の事務局校の会長及び大会役員として、本年度の本校五十周年記念事業における実行副委員長として、会員に対する指揮、命令、思いやりは見事なものであった。本校にとって郡山市にとって誇れる会長である。

(行健中学校長 石塚達郎)

### 随想

## PTA活動の原点は

前事務局長 尻谷 洋



「校庭の草刈り作業は大変でも子供達でやることにしよう。PTAにお願ひするのもよいが、学校で処理できることは出来るだけ自分達でやろう」

「いや、一般の父兄が学校に来る機会意外に少ない。地域の学校に関心・愛着を持って貰う為にも汗を流しての活動という形は残り親しくしてない親同士がしゃべり合う機会にも……」

昭和四十年代、世の中がより専門家を指す高度成長期真っ只中、農村地域の小規模校の行事計画打合せでの教育のやりとりである。縁あって県PTA連合会の事務を掌ることとなった頃、この打合せの情景をふっと思い出した。

平成年代に入って「社会教育」或いは「生涯学習」の一駒としてPTAが急激に重要視されるようになった。そして、その系列の中の活動が期待され外部からの要請活動も加わり、忙しいPTAと

なりつつある。このような状況の中で、改めてPTA活動の基本について改めて振り返って見る必要があるのではないだろうか。

単的に言えば、PTAの原点は「その学校があつてのPTA」という事である。そして、特に義務教育諸学校のPTA活動の基盤になるのは「その学校の子供達が、自分達の地域に愛着を持ち、落着いて学習出来る環境づくりの為の、日常的・継続的の活動の推進」という事になるのではないだろうか。

昨今の、子供達の通学時等の安全確保の一つとして《かけこみ寺(家)》を依頼しなければならぬ事実を象徴される不安定な世相が日常的になりつつある。

お互いに今の忙しい社会を作り出していると言う自覚の中で、学校もPTA自身も負担過重にならない、息の長い地道な活動を心掛けたいものである。







安全互助会から

■学童・PTA総合補償制度とは？

- ◆ 学童（幼・小・中学生）の補償  
登下校時・学校管理下外（家庭内等）でおきたケガ
- ◆ P T A 会員の補償  
会員が P T A 行事に参加しているときにおきたケガ
- ◆ 学童の賠償事故の補償  
他人の身体や物に損害を与え、法的な責任を負った場合
- ◆ P T A の賠償事故の補償  
P T A 主催行事での P T A 側のミスでの事故

来年度からCコースを設定

現在、A-1・A-2、B-1・B-2の4コースがありますが、時に、多額の補償を求められるケースが出ております。

そこで、新たにCコース（C型）を設定することが、理事会で決定されました。

C型は、学童死亡100万円・父母死亡390万円、入院日額学童1,200円・父母4,000円、通院日額800円・父母2,500円、賠償学童最高200万円・父母500万円です。父母の賠償額を除きそれぞれアップしていることと、賠償付のみのコースということが特徴です。

2月には各学校・園に届くように募集要項を発送いたしますので、よろしく検討ください。

なお、皆様ご存じのとおりB-1やA-1は、傷害の補償のみで賠償が付いていないコースです。

近年、賠償を伴う事故がかなり発生しておりますので、ぜひ、A-2・B-2・C型に加入いただきますようお願いいたします。

C型の掛け金は、学童と父母1組で1,000円、学童ひとり増えるごとに820円増となります。

4月からの事故件数

(10月末現在)

月	損 害 (父母)	賠 責 (父母)
4	86 ( 2)	3 ( 0)
5	179 ( 5)	0 ( 0)
6	250 ( 6)	7 ( 0)
7	316 ( 8)	6 ( 0)
8	82 ( 5)	0 ( 0)
9	235 ( 23)	9 ( 7)
10	532 ( 55)	7 ( 4)
計	1,670 (104)	32 (11)

※ 学童死亡件数……6 (昨年比1減)

福島県 P T A 安全互助会  
提携損保 共栄火災海上保険相互会社

〒960 福島市本町5-5 殖銀フコク生命ビル7階

TEL 024-523-3507

FAX 024-523-3509

編集後記

今年もあと一ヶ月で終わりとなります。例年のことですが、反省・反省だけで一年が過ぎていきそうです。  
しかし、社会の激しい変化に対応した P T A 活動のあり方を創造する事が今こそ問われていると考えます。

学校教育が大きく変わろうとしております。例えば、学校週5日制の完全実施やそれに対応する教育内容の精選・改善等に関する事項の理解と対応とは、私ども P T A にとっても欠かせないことです。  
また、子どもを取りまく社会環境のマイナスの変化、薬物の乱用や性的非行の氾濫等心配な減少が増加傾向にあります。

このような問題にどう P T A として取り組んでいくかを、組織をとおして真摯に考え、実践していくことが求められていると思えます。

今日、P T A 活動の活性化が叫ばれていますが、これらの問題への共通の実践こそが活性化に通ずると考えます。

終わりに、読みやすい見易い紙面づくりをと留意しておりますが、よろしくご支援ください。

よいお年をお迎えください。